

## ◎再び初代土木局長

### 故古市男に付て

本誌三月號から「歴代内務土木局長と其時代」と題して、土木局長に就任した各氏の閥歴性格其時代になしたる事業等を連載してゐるが、最初の土木局長として故古市公威男を記載した然して其の關係上故市の學界方面に於けることは省略したか茲には少しくこれを



五十七年三月和同生先武公市古辭男

を詳くことにした。故古市男は明治三十九年九月十四日勅旨を以て、帝國學士院會員に命ぜられてゐる。其時男は朝鮮統監府鐵道管理局長であつたが其の官邸に於て辭令の傳達を受けるに當り、これ學者として最高の名譽なりと深く感激して、特に禮裝を收め威儀を正して之を拜受したさう

ものである。福澤諭吉、西周、加藤弘之、細川潤次郎氏等學界方面知名の士は相繼いで院長となり、公開講演を行ひ定期雜誌を刊行し學藝及び教化に關して大にその力を用ひ、さすがは本邦領事より推選勅旨を以て命ぜらる、會員だけあつて學界の最高權威ある、學術會である。古市民は亦勅令に依つて會員として第二部長として盡したことは恰く學界の認むる所である。

日本工學會に亦帝國の工學工業及工藝の進歩發達を圖るを目的として明治十二年に創立した斯界の學會であるが、氏は同會幹事として會長山尾庸三及副會長渡邊洪恭氏を扶けて之れが發展に努力を致し今日の隆盛を見るに至つたのである。大正六年六月に會長山尾庸三辭任した後を受けて古市民は會長に推選せられてゐる、日本工學大會萬國工業會議明治工業良編纂の完成等を始めとして塗料材料のX線的研究、水道鐵管及附屬品標準型の調査等教學に暇をわらざる程各種工業學界に貢献してゐる。土木學會も亦古市沖野兩博士の設立されたもので我國土木事業及技術の研

である。次いで明治四十二年六月の役員改選に際して菊地大藏氏が院長に繼ぎ陳重氏が第一部長に古市氏は第二部長に當選してゐる。爾來第二部長として我が學界に貢献する所長に十三年の久しきに亘つてゐる。

帝國學士院は我國最高の學術の進歩發達と教化の襍補を

圖るを目的とする權威あるもので、初め東京學士會院と稱して、明治十一年十二月文部省雇員間米人「ダヒット・モートー」氏の建議に依り時の文部卿西郷從道氏が之れを容れて、創設を決定して文部省修文館を借用して開いたものだが、明治十八年二月文部卿大木喬任氏が新に本院組織の大綱を定め四十名の會員中十五名を勅選に待ち二十五名を推選に係るものとしたのである。更に明治二十三年十月勅令を以て東京學士院規程同二十八年六月同補則を發布せられたが、次いで三十九年六月その組織を更革し、勅令を以て帝國學士院規程の發布となつた

究に對して多大に功績を擧げてゐる。其他氏が關係してこれに努力貢献したのは日佛協會、港灣協會、日本動力協會、帝國鐵道協會等多方面に亘つてゐるが、殊に港灣協會は歐洲大戦を一轉機として、世界各國は文化施設の擴充に銳意其の力を表し國力の振興を圖るに汲々たる、この時に當り帝國の地歩を確立し世界の大勢に順應せんが爲には産業の發展を期するを最大急務である、この産業發展に重大關係を有する交通機關の整備就中港灣問題は集眉の急務なりとの趣旨の下に官民一致して、大正十一年十一月同協會の設立を見たのであるが、會長には時の内務大臣水野錬太郎氏が就任して副會長には氏と時の内務次官堀田眞氏が推されて就任してゐる。爾來港灣法の制定港灣行政の統一重要港灣の選定地方港灣の援助港灣荷役の改善自由港の設置關東大震災と東京橫濱兩港の復興日滿連絡と北鮮港灣の選定關門石港の統一管理其他帝國各地方港灣に關する諸問題の研究調査して或は之を當局に建議し又輿論を喚起して、我國の港灣の改善發達に努力し來たが氏の與かつて力に依る所は多大であつた。これだけを附記して置く。